

いそファミ通信

8月号



真夏の日差しがぎらぎらと照りつける日が続いております。暑さは一向に衰える気配がありませんね。大人はぐったりしていますが、子どもたちにとっては楽しい夏休み。そんな夏休みを元気に過ごすために注意して欲しい、夏に流行する感染症についてお伝えします。

1)『咽頭結膜熱(プール熱)』

昔はプールで感染することが多いので、プール熱と呼ばれている病気です。病気の元である、「アデノウイルス」は唾液や便を通じて感染します。病気の症状は、38～39度の発熱とのどの痛み。その後、目の充血や目やに、結膜炎症状が現れます。リンパ腺の腫れ、嘔吐や下痢をとまなう場合もあります。感染力がとても強いので、この病気にかかった場合は、主な症状がなくなつて、2日を経過するまで保育園や学校を休まなくてはなりません。



2)『ヘルパンギーナ』

ウイルスの感染によっておこる病気です。症状は39～40度の高熱が長く続き、のどの奥に口内炎ができます。口内の水疱が破れて潰瘍になると痛みが強くなります。水分補給をするときは、酸味のあるものは控えたほうがいいかもしれませんね。原因となるウイルスが数種類あるので、何度も感染してしまう場合もあります。大人が感染すると、39度を超える高熱など重い症状が続くこともあるので、二次感染に注意してください。

3)『手足口病』

その名前の通り、手のひらと足のうら、口の中に水疱状の湿疹ができる病気です。口内のものが破れると痛みを訴え、食欲が減退するかもしれません。食事や飲み物を工夫してあげるといいと思います。また、37～38度の発熱が出る場合や、下痢や嘔吐を伴うケースがあります。水疱から直接感染する場合があるので、水泡には触れないようにしてください。発症した後は1週

間から10日ほどかけて自然に治癒します。

特に今年はここ10年で最多患者数といわれています。手足口病にはワクチンなどは存在しないため、この病気の予防には、手洗いやうがいを欠かさずおこなうことが、きわめて重要になります。大人も感染する場合があります。大人に感染した場合は症状が重くなる傾向があります。

手足口病は出席停止となる病気ではありません。解熱し、状態が安定していれば登園登校可能です。

夏風邪のウイルスは髄膜炎を引き起こすことがあるので、治るまでは無理せず過ごしてください。

(4)『溶連菌感染症』

のどの痛みや発熱など風邪のような初期症状があります。体や手足に小さくて紅い発疹が出たり、舌にイチゴのようなツブツブができたりします。そのほかに頭痛、腹痛、首すじのリンパ節の腫れもみられます。急性期を過ぎますと、発疹のあとには落屑(皮むけ)が認められるようになります。

お薬を飲み始めると、2～3日で熱が下がり、のどの痛みもやわらいできます。しかし、確実に溶連菌を退治し、重大な合併症を引き起こさないために、症状が消えても抗生物質はしばらく飲み続けなくてはなりません。腎障害の合併症が起こす場合があるので、4週間くらいあとに尿検査を行う必要があります。

お知らせ

住民健診の胃がん検診の予約定員が残りわずかとなっております。胃がん健診を受ける予定で、予約がまだの方は早めの予約をおすすめします。

その他の大腸がん検診、肺がん検診などの住民検診は10月末日まで受けることができます。

住民検診、特定検診につきまして、お待ちいただく時間をできるだけ少なくするため、事前に電話でのご予約をお願いしています。



いそむらファミリークリニック